

ビザを手にしたユダヤ系避難民のその後

千畝が発給した日本の通過ビザを手にし、日本に上陸したユダヤ系避難民の多くは、カウナスを出たのち、シベリア鉄道に乗り、ウラジオストクの港から船で敦賀港に到着しました。その後、神戸や横浜などを経由し、アメリカ合衆国やカナダなどの第三国に渡っていきました。



ユダヤ系避難民の脱出ルート

ユダヤ系避難民が上陸した敦賀港

千畝が発給したビザを持ったユダヤ系避難民が上陸した敦賀には、過酷な状況で上陸したユダヤ系避難民に対して、果物の入った籠を無償で置いていった少年や、港近くにあった銭湯を無料で開放した話など、心温まるエピソードが残されています。



ユダヤ系避難民が上陸した頃の敦賀港（「ふるさと敦賀の回想」より）

イスラエル政府から贈られたメダル

1985(昭和60)年、85歳になった千畝に、「諸国民の中の正義の人賞」(ヤド・バシエム賞)が贈られました。これは、命がけでユダヤ人を救った外国人に、イスラエル政府から贈られる最高の名誉賞です。千畝に贈られた記念のメダルには、「一人の命を救うことは、全世界を救うに等しい」と書かれています。

ビザ発給から45年の月日が流れても、千畝の功績は讃えられています。



「諸国民の中の正義の人賞」のメダル

少年像「勇氣」千畝十六歳

名古屋市では、2020(令和2)年の「命のビザ」発給80年の節目の年に、千畝の「功績」と「名古屋とのゆかり」を次の世代へ大切に伝えていくため、広く寄附金を募り少年像を制作しました。

千畝少年像は、「五中」の徽章のついた学生帽をかぶり左手に英語の教科書を抱えています。

将来、外交官となってリトアニア・カウナスの地で大きな決断を迫られたとき、千畝の背中を押した「勇氣」を表現しています。



少年像「勇氣」千畝十六歳

杉原千畝 関連施設の紹介



杉原千畝記念館

杉原千畝記念館

The Chiune Sugihara Memorial Hall



岐阜県加茂郡八百津町八百津 1071
電話：0574-43-2460

- 開館時間
午前 9 時 30 分～午後 5 時（午後 4 時 30 分までに入館）
- 休 館 日
毎週月曜日（祝日または振替休日の場合は、翌平日）、年末年始
- 入館料金
大人（高校生以上）300 円
中学生以下 無料
団体割引有



バス利用

名鉄 明智駅から「YAO/バス」八百津町ファミリーセンター下車
JR 美濃太田駅から東鉄バス八百津町ファミリーセンター下車
八百津町ファミリーセンターより
（平 日）定時運行バスやおまろに乗換 人道の丘北下車
（土日祝日）無料シャトルタクシーに乗換

車利用

東海環状自動車道 可児御嵩インターより 約 20 分



人道の港 敦賀ムゼウム



福井県敦賀市金ヶ崎町 23-1
電話：0770-37-1035

- 開館時間
午前 9 時～午後 5 時（午後 4 時 30 分までに入館）
- 休 館 日
毎週水曜日（祝日の場合はその翌日）、年末年始
- 入 場 料
大人 500 円 / 小学生以下 300 円（4 歳未満は無料）
団体割引有



バス利用

JR 敦賀駅からぐるっと敦賀周遊バス（観光ルート）「金ヶ崎緑地」下車
JR 敦賀駅からコミュニティバス松原線「金ヶ崎緑地」下車

車利用

北陸自動車道敦賀インターチェンジから約 10 分



杉原千畝広場 センポ・スギハラ・メモリアル

Chiune Sugihara Square AICHI PREFECTURE “SEMPO” SUGIHARA MEMORIAL



当施設は、オープンスペースのため、御自由に御覧いただけます。
なお、学校施設内にあるため、授業等に支障のないよう御配慮をお願いします。

名古屋市瑞穂区北原町 2- 1
（愛知県立瑞陵高等学校正門西側）
電話：052-954-6747（愛知県教育委員会総務課）

バス利用

市バス 瑞穂区役所下車 西へ約 450m
市バス 豊岡通下車 北へ約 650m

地下鉄利用

地下鉄桜通線「瑞穂区役所駅」（4 番出口）から西へ約 400m
公共交通機関でお越しください。（駐車場、トイレはありません。）

問い合わせ先

名古屋市総務局総合調整部
電話：052-972-2223 FAX：052-972-4112

写真提供：NPO 杉原千畝命のビザ
八百津町、敦賀市

令和 5 年 3 月発行

すぎはら ちうね
杉原 千畝

じんどう みち
人道の道ルートマップ



杉原千畝（1900–1986）

「命のビザ」で知られる杉原千畝は日本の外交官です。第二次世界大戦中に千畝は迫害から逃がれようとするユダヤ系避難民に 2,000 通を超えるビザを発給し、多くのユダヤ人を救いました。

千畝は少年期の約 10 年を名古屋で過ごしました。千畝の功績を讃えて、当時の居住地付近から出身校である愛知県立第五中学校（現在の愛知県立瑞陵高等学校）を結び、「杉原千畝 人道の道」と名付けました。